

令和6年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.7	本校設置学科、6学科において、各部署で生徒の実態を踏まえ、目標を設定し、継続的な改善を目指している。クラウドを利用した職員間グループウェアを稼働させ、各校務分掌毎に共有フォルダを置き、教職員間の共通理解と業務効率化、紙資源の節約を目指している。令和4年度導入の校務支援システムは3年目となり、全学年を対象に稼働中である。

2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.8	学科の特色に合わせた学級経営を工夫して行っている。転・退学者の少なさが本校の特徴であるが、今年度は例年と比較し、転・退学者が多かった。職員間の組織的な連携と細かい声掛けが必要である。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.6	教科により頻度の差はあるが、年間計画に従って目標設定、プロセスを説明しながら授業を展開している。該当時間に「何を学ぶのか」共通理解を図り、授業を展開している。 一斉講義型授業で理解が十分でない生徒、時間を持て余す生徒を想定し「個別最適化な学び」のための研修を実施。令和7年度は各学科、各教科毎に「研修会」を実施予定。小中学校教育現場でのICTリテラシーと比較すると出遅れ感が否めない。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	3.8	担当職員の考えで進めるのではなく、生徒に考えさせ、学校生活がより良いものになるように導いた。挨拶運動、清掃活動など、良いものは残しつつ、自主的に企画、運営しようとする姿があった。 体育大会については、感染症の予防から、熱中症対策に重点を置く中で、生徒の体力を温存するため午前中のみ2日間開催した。クラスマッチ等、年間行事の中で実施時期を再検討しなければならない段階でもある。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的生活の確立を図る 交通ルールの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.7	本校特有の「皆勤賞」を目指す指導により、自己管理ができるようになることを目標とし、基本的な生活習慣の確立を図る。職員間での指導に差が生じないよう連携を図る。 立哨指導、通学手段別指導、講習会、ネットモラル講習会、性教育、SNS使用に関する講演会等、継続的な指導が必要である。一方、「他者を思いやる心」を生徒に育ませる職員側の指導力も不可欠である。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に応じた進学・就職指導	4.1	求人情報のデジタル化を継続し、就職希望者は100%内定。また、6学科の特色に応じた進路指導、早い段階でのキャリア教育を実践している。医療福祉科については、国家試験6年連続100%合格。看護学科についても、高い合格率を達成。専門系からの公務員試験合格、普通科からの国公立大学への合格。特進科においても、高い国公立大合格率を維持している。進路実現のためには「目的意識の向上」が重要であり、校名の由来である「志は尚く」を礎に、更に高い目標掲げる。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.5	心の問題を抱える生徒が増えている。生徒が相談しやすい雰囲気づくり、コミュニケーションを図り、組織的に対応していくことの大切さを職員間で共通理解している。カウンセラーとの連携は今後も継続する。体育科では夏場の猛暑対策として、生徒の基礎体力向上を目指した授業の実践に努めている。防火・防災訓練は計画通りに実施。ゴミの分別については、改善傾向にある。環境衛生の整備については、生徒会の美化部との協力で校内美化活動に取り組んでいる。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.9	全職員による取り組みが入学者定員確保につながっている。近隣校で既に導入されているWeb出願を採用したことで、近隣中学校進路担当者からは好評であった。ホームページは、より閲覧しやすく(スマホ対応)リニューアル中。また、中学校PTA、中学生の来校には柔軟に対応し、更に、地区別説明会、中高連絡会、体験入学、進学相談会、出向説明会において本校の理解につながるよう努めている。私立高校授業料無償化の議論が進む中、3年後の生徒、保護者の満足度を更に高めていくことが今後の課題であり、進路指導の実績が益々重要になることを踏まえ、在校生に対する指導に全力を尽くす。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.5	大会の結果だけでなく、学習面やコミュニケーション能力、礼儀作法、マナーなど、人間形成につながる指導を行っている。強化部の部活動生においては他の生徒の模範になることを目標に、学校生活、生活態度、授業態度はもちろんのこと、諸大会での実績についても更に高いレベルを目指し、学校全体の活性化につながる活躍に期待する。
評 価				3.7	